



「明るく優しく
敬意をもって」

宇部幸楽苑

看護主任

山木 千代子

日本で、新型コロナウイルスの感染が確認されたのは5年前でした。クルーズ船『ダイヤモンド・プリンセス号』の集団感染のニュースは、今でも忘れません。

2年前には、季節性インフルエンザと同じ『5類感染症』に引き下げられました。5類になったからといって、新型コロナウイルスの感染力が低下したわけでもなく、感染力は同じです。

5年前には、日本全体が、マスク不足になるほどマスクをしていたのに、5類移行コロナに対する世間の見方が薄れ、人混みの中でも、マスクをしている方が少なくなってきました。（そういえば、5年前、政府から布マスクの支給もありましたが、さて布マスクはどこに行ったのやら…。）

高齢者の方が新型コロナウイルスに感染すると、重症化リスクが高まることが分かっています。幸楽苑は、高齢者施設なので、ご利用者に感染させない為、感染源を『持ち込まない』『持ち出さない』『拡げない』を基本に、職員の正しいマスク装着・手指消毒を重視しています。

御家族の面会においても、マスク装着・手指消毒して面会して頂いています。

感染により、利用者の生活が滞らない様職員全体で感染予防しています。

さて、現在幸楽苑の入所は、60歳代から100歳代の方がいらつしやいます。

医療・看護・介護・リハビリ・ご家族と密接に関わるケアマネ・相談員が、チームとしてご本人・ご家族を支えています。

ご利用者との出会いに感謝し、ご本人の思いに寄り添う自分でありたいと思います。

『いかに生きるか』『いかに死ぬか』は私自身のテーマでもあります。

入所の方にも、『自分は、いかに生きて行きたいか』に向かって援助していきたいと思っています。当たり前のことを当たり前に行える様、ケアをして、支えていきたい。

幸楽苑では、在宅支援の施設ではありませんが、それぞれの生き方があります。支援する中で、命の灯を消すのを幸楽苑で望まれる方もいらつしやいます。最後のひと時、数時間を家で家族に見守られながら見送られた方もいらつしやいます。

ケアをする職員として、自分自身考えチームとして考え、ご利用者の『いかに…』にこだわりたいと思います。



「敬老会を行いました」

9月10日に敬老会を行いました。昨年まではコロナ感染症の影響を考え式典と言うものは行っておりませんでしたが、今年はコロナ禍以前のように苑外ボランティア（野いちごの会）の方々をお呼びして式典と催し物を行いました。今回は百寿1名、白寿1名、卒寿4名、米寿2名、傘寿2名、喜寿3名、古希2名計15名をお祝いしました。これからも元気に過ごして頂きたいです。



「徒然なるままに…」

2階 介護福祉士 三田 芳美

残暑厳しい日々も落ち着き、過ごしやすい日が増えてきましたね。

私ごとですが、先日40歳になりました！

旦那の両親と同居して早2年、家の事は義理の母に任せっきりのグータラ嫁です。いつか追い出されないかとヒヤヒヤしております。（笑）

そんな私が幸楽苑に入社したのは、短大を卒業したぴちぴちの20歳。そして趣味だったダーツに没頭しすぎて28歳の時にダーツで食べていく！と意気込み退社し、その2年後に挫折…。そんな私を介護パートとして再度雇用して頂きました。4年ほど働き34歳の時に結婚し、それを機に正社員として雇ってもらいました。

35歳で息子、36歳で娘を立て続けに出産（前代未聞の2年連続産休、育休取得）、そして今に至ります。

この幸楽苑は、そんな経歴を持つ私でも、雇って頂ける素晴らしいところですよ！

少しでも一緒に働いてみたいと思う方がいらつしやいましたら、お気軽にご相談ください。

最後に短い秋と言われていますが、みなさんスポーツの秋、読書の秋、食欲の秋をたくさん楽しんでいきましょー！！